

令和5年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくまい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み
-------------------	--	----------	--

評価基準 A：十分達成(100%) B：概ね達成(80%程度) C：変化の兆し(60%程度) D：まだ不十分(40%程度) E：目標・方策の見直し(30%以下)

評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	最終評価	改善方策
1	学力の向上	① 授業改革と学力の向上	○各教科で授業の工夫改善に努めている。「私は授業に満足している」とする生徒の割合が86% ○授業でのICT活用が増えた。ICT機器を活用した授業がよく行われているとする生徒の割合が67% ○STEAMLabの整備、STEAM教育研修会、公開授業など、STEAM教育の実践に向けて取り組んでいる ○基礎力診断テストの分析や現状把握に努めている	○「私は授業に満足している」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○ICT機器を活用した授業がよく行われているとする生徒の割合が70%以上 ○鳥工版STEAM教育を通して、生徒が教科横断的・融合的に学ぶでている ○基礎力診断テストの評価が向上している	○授業公開等を通して、授業をより改善するための意見交換を各教科で継続する ○教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する ○STEAMLabを積極的に活用しながら、研修会や公開授業で得たものを各教科に応用・実践する ○基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする	○各教科で授業の工夫改善に努めた。「授業に満足している」とする生徒の割合が84% ○授業でのICT活用が浸透しつつある。「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が71% ○授業等におけるSTEAMLabの活用や公開授業など、STEAM教育の実践に向けて取り組んだ ○基礎力診断テストの結果を分析し現状把握に努めた	B	○授業公開等を通して、授業をより改善するための意見交換を各教科で継続する ○教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する ○STEAMLabを積極的に活用しながら、その成果を各教科で共有し、応用・実践する ○基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする
		② 主体的な学習態度と実践力の育成	○授業の規律を随時周知し、「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が89% ○知的好奇心を刺激する授業づくりに努め、「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が86% ○面談を通じて日々の自宅学習に対する姿勢を確認し、R4.11月自宅学習時間調査1日平均117分(R3：100分、R2：80分) ○資格取得・検定合格に向けて補習指導を行っている	○「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○11月自宅学習時間調査が1日平均120分程度を維持している ○多くの生徒が資格取得・検定合格に向けて努力している	○「生活指導方針」に基づき、授業規律の周知・徹底を継続する ○先端分野(Society5.0)やSTEAM教育を意欲的に授業研究を継続する ○担任・学司等による面談をきめ細かく行い、学習意欲や進路意識を高める ○資格・検定の情報を生徒に周知し、面談等を通じて取得を促す	○「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が87% ○各教科で知的好奇心を刺激する授業づくりに努めた。「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が87% ○生徒面談を通じて学習に取り組む態度を確認した。11月自宅学習時間調査1日平均99分(R4：117分、R3：100分、R2：80分) ○資格・検定の案内を行い、進路意識を高めている	B	○早めの授業準備など授業規律の遵守を指導する ○これからの社会で活躍するために必要力を意欲的に身に付けられるよう、授業を継続的に工夫する ○面談を適宜行い、授業態度や進路意識を高める ○日々の学習と進路意識の向上を繋げていく
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している ○人権教育LHR、性に関する指導LHR、5・5・あさひの指導等を通じて、互いを尊重し合う意識を高めている ○校内WEB掲示板等を通じて、人権教育関係研修会への積極的な参加を呼びかけ、参加者はその成果を様々な場面で指導に活かしている	○悩み等を相談でき、一人一人が安心した学校生活を送っている ○一人一人が人権の尊重された学校生活を送っている ○日々の生活の中で人権問題に気づき、考えながら学校生活を送っている	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する ○人権教育LHR、性に関する指導LHR、5・5・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高める ○人権教育関係研修会等に積極的に参加し、その成果を様々な場面で指導に活かす	○面談、各種アンケート(ハイバー・QU・いじめ・生活振り返り等)、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等の早期把握と速やかな対応に努めた ○人権教育LHRや講演会等を行った。「互いを尊重し合いがら学校生活を送っている」とする生徒の割合が87% ○人権教育関係研修会への参加率は36%(1月末現在)	B	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する ○人権教育LHR、性に関する指導LHR等を通じて、互いを尊重し合う意識を高める ○校内WEB掲示板等を通じて、人権教育関係研修会への積極的な参加を呼びかけ、参加者はその成果を様々な場面で指導に活かす
		② 健全な心身と社会貢献精神の育成	○各種安全教室、朝の交通指導、5・5・あさひの指導等を行い、「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が94% ○部活動の大会中止が最多中、1月末累計で中国大会に74名が出場した ○テクノボランティアは実施したが、桜ヶ丘グリーンゾーン活動は中止となった ○2019年度比で2月末で可燃ゴミ排出量36.4%減、電力使用量2.6%増であった	○「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が90%以上を維持している ○多くの生徒が部活動に熱心に取り組み、大会等で活躍している ○社会貢献の意識が高まり、ボランティア活動等に積極的に参加している ○環境改善の意識が高まり、2019年度比で可燃ゴミ排出量5%減、電力使用量1%減となっている	○各種安全教室、朝の交通指導を行い、また5・5・あさひについて積極的に指導する ○ホームページや広報誌を通じて、部活動の成果や成績を積極的に公開し、意欲を促す ○様々な機会を通じて社会貢献への意識を高め、ボランティアへの積極的な参加を呼びかける ○可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う	○各種安全教室、朝の交通指導、「5・5」「あさひ」等を積極的にに行った。「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が95% ○9つの部活動・同好会の生徒が中国・全国大会に出場した。ホームページを通じた広報はやや不十分であった ○ボランティア活動に生徒60名が参加した。また能登半島地震災害義援金の募金活動を行った ○環境改善目標の達成状況を公開し、校内への啓発を行った。電力使用量は猛暑や常時換気の影響もあり目標に到達していないものの、可燃ゴミ排出量は概ね順調に目標に到達している(1月末現在)	B	○ホームページだけではなく、SNS(X, Facebookなど)を使った情報発信も検討する ○ボランティア活動等を通じて社会貢献に努めるよう、積極的に働きかける ○可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を積極的に行う
3	キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	○企業見学と鳥工版デュアルシステムは実施したが、インターンシップは中止となった ○鳥工TECは実施し、課題研究発表会はリモートで実施した ○一人一資格取得率・検定合格率は全体で88.0%(3年95.1%、2年90.5%、1年74.1%)。資格取得・検定合格に向けて指導を行い、ジュニアマイスターの特別表彰を受賞した	○専門的知識・技術に加え、社会人としての資質を身につけている ○学習成果の発表・展示に向けて、生き生きと「ものづくり」に取り組んでいる ○年間の一一人資格取得率・検定合格率が60%以上、かつ3年間で一人一人資格取得率・検定合格率が90%程度を維持している	○企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を行う ○鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等において、学習成果の発表・展示を行う ○資格・検定取得に向けてきめ細かく指導を行う	○企業見学は3学年とも実施した。鳥工版デュアルシステムは機械科・電気科で実施した。インターンシップは2学年で実施した ○鳥工TECや課題研究発表会等において学習成果の発表・展示を行うなど、ものづくりに熱心に取り組んだ ○一人一資格取得率・検定合格率は全体88.3%(3年95.6%、2年81.0%、1年85.7%)。スーパー工業士に11名の生徒が認定された	B	○企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を通じて社会人としての資質を高める。進路指導や授業において将来の進路について意識させる ○実習や課題研究等での指導をさらに充実させる
		② 労働観・職業観の育成と進路指導の徹底	○校内外と連携して進路行事・進路指導を実施し、「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が89% ○就職一次試験の合格率高く(R4:95%)、推薦制度等を活用し12名が大学に合格した ○個々の進路実現に向けて、面接指導・受験対策等を実施し「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができていく」とする保護者の割合が上昇した(R4:80%、R3:68.7%) ○ICT機器を活用した、進路学習、情報の提供、受験対策が充実しつつある	○各進路行事・進路指導を通して「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が80%以上を維持している ○就職一次試験の合格率90%以上を維持し、また推薦制度等を活用し第1希望の学校に合格している ○「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができていく」とする保護者の割合が80%以上 ○ICT機器を効果的に活用し主体的な進路学習を行っている	○各事業所、外部機関等、校内外と連携・情報共有し、各進路行事を充実させる ○SPI・面接・小論文模試等、個々の就職試験や進学受験に応じたきめ細かく指導する ○進路行事や各種情報を保護者に周知し、また進路相談に対して丁寧に対応する ○ICT機器で進路情報の提供・活用方法について、他校を整備する	○「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が89% ○就職一次試験の合格率は97%、進学希望者は、国公立大学合格者3名を含め、第1希望の学校の合格率は96% ○「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができていく」とする保護者の割合が77% ○ICT機器による進路情報の提供・活用方法について、他校とも情報交換しながら環境を整備中である	B	○各事業所、外部機関等、校内外と連携・情報共有し、進路指導・各進路行事を充実させる ○SPI・面接・小論文模試等、個々の進学試験や様々な進学受験方法に応じた組織的に対応し、きめ細かく指導する ○充実した情報発信・進路指導に努め、生徒や保護者からの進路相談に丁寧に対応する ○様々な進路情報を適切に提供・活用できるように一層環境を整備していく
		③ 地域や産業界との連携強化	○分野別進路ガイダンスを実施し、地域の企業の取り組みや魅力についての理解を深めている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したい」と思っているとする生徒の割合が80% ○「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が77%。津ノ井地域からも高い評価を得ている	○地域に貢献する人材としての自覚をもっている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したい」と思っているとする生徒の割合が80%以上を維持している ○「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が80%以上。津ノ井地域からも高い評価を得ている	○進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を継続する ○ホームページの充実及びホームページ以外のSNSも併用した方法も検討する。また、津ノ井地域懇談会で本校を積極的にPRするとともに、意見交換・情報交換を行う	○分野別進路ガイダンス(1・2年対象)を実施し、地域の企業の取り組みや魅力についての理解が深まった。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したい」と思っているとする生徒の割合が84% ○PTAだよりや玄関内大型モニターで本校の特色等をPRした。「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が79%	B	○進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を継続する ○ホームページ以外のSNSも併用した方法も検討する
4	業務改善の取組	① 5SとQCストーリーの実践	○分掌業務を円滑に引継ぐため、電子ファイルの整理と業務のマニュアル化を進めたが不十分であり、学校行事のマニュアル化も必要である ○部活動の実施計画書で確認し、月30時間を超える場合は調整を促した ○時間外業務が月45時間を超えた職員は延べ13名で前年よりやや増加したが、年間を通じ時間外業務時間は令和3年度より概ね10%減少した	○分掌業務が円滑に引継がれ、また、特別活動や学校行事は業務マニュアル化され、担当者が変わっても滞りなく業務が遂行できる ○部活動の実施計画段階で、時間外業務が月30時間以内に抑えられている ○時間外業務が月45時間を超える職員が0名で、年間通じて時間外業務は、前年度より減少している	○電子ファイルの整備を確認し、業務マニュアル作成を促進、学校行事は終了時点で次年度に向けてマニュアルを整備する ○部活動実施計画書に記載された時間を確認する ○勤怠管理システムの定期的な入力を促す。また、AI採点の導入を検討する	○学校行事は終了時点で反省点がまとめられている。ネットワークフォルダ内を点検してファイルを整理し、業務マニュアルの保存場所を一部作成した ○部活動実施計画書で時間外業務を確認し、月30時間を超える場合は調整を促している ○時間外業務が月45時間を超えた職員は延べ11名で前年より減少した(12月末時点)、年間を通じ時間外業務時間は令和4年度より約5%減少した。AI採点を試験的に導入、採点時間がかなり短縮できた	C	○電子ファイルの整理と整備を進め、学校行事の業務マニュアルの保存場所を整理する ○引き続き、部活動実施計画段階で時間外業務の削減につながるよう調整を進める ○勤怠管理システムへの入力を通じて、時間外業務削減への意識づけを一層進める

注) STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び S・S：整理・整備・清掃・清潔・狭 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動
デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム QC(品質管理) ストーリー：問題解決の手順